

異常気象に備えよう

水害コミュニティ・タイムライン (町内会等の事前防災行動計画)

作成マニュアル

自治体（多機関連携） タイムライン



防災上の課題・要望

- ・住民への声かけがあるため、避難情報を早くだしてほしい
- ・安全な避難所が少ない

防災対応の支援 住民へのお願い

- ・早めに避難情報を発令します（空振りも了承ください）
- ・垂直避難や民間施設への避難を含め地域で検討してください

コミュニティ タイムライン



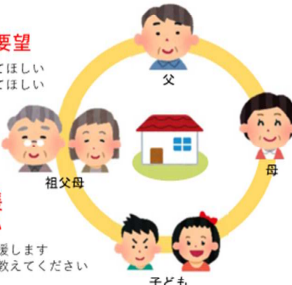
防災上の課題・要望

- ・祖父母の避難を手伝ってほしい
- ・道路の冠水状況を教えてほしい

防災対応の支援 住民へのお願い

- ・地域で協力して避難支援します
- ・自宅周辺の道路状況を教えてください

家族の タイムライン



災害時に円滑な判断・対応ができるよう、機関連携による自治体の支援方策を検討した上で、具体的な防災行動を計画する。

- ・避難情報発令の基準・タイミングは？
- ・自治体や関係機関の連携内容・情報共有は？
- ・住民への情報提供・避難支援は？

住民が安全に避難できるよう、地域の防災上の現状や課題を踏まえ、コミュニティの対応方針や避難ルールを計画する。

- ・自治会長や班長の役割は？
- ・安全な避難場所・施設は？
- ・住民が避難開始を判断する情報や目安は？
- ・住民に求める行動は？（避難状況の報告など）

災害時に住民一人ひとりが安全を確保できるよう、家族、親戚、隣近所の防災行動や避難支援体制を計画する。

- ・いつどこへ避難する？
- ・高齢者等の災害時要支援者の避難は誰が支援する？
- ・災害時の連絡方法は？
- ・災害に備え準備する物は？

令和元年10月
滝川市

も く じ

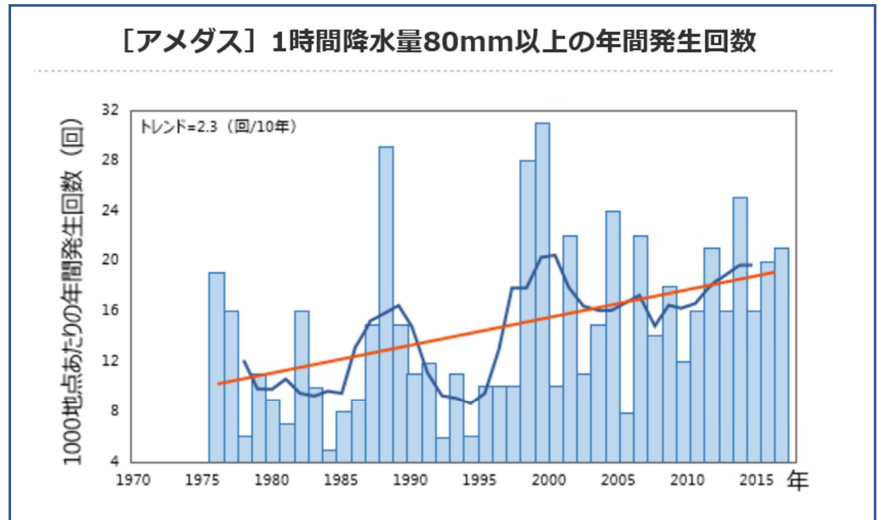
1. 地域における助け合い（共助）の重要性について	 4
1-1. 近年の自然災害	 4
(1) 異常気象時代	 4
(2) 最近の主な大規模水害	 4
1-2. 「自らの命は自ら守る」という意識を持つ地域を目指す	 5
(1) 異常気象時代では行政主導の災害対応には限界がある（公助）	 5
(2) 自らの命は自ら守る（自助）	 5
(3) 地域の助け合い（共助）	 6
(4) 地域の助け合い（共助）が必要なわけ	 6
1-3. 地域における助け合い（共助）を進めるためには	 7
(1) 町内会長としての立場を最大限に利用しましょう	 7
(2) 楽しく取り組もう	 7
(3) 地域防災に関わる仲間を作り、育てよう	 8
(4) 共助でできることを整理し、地域で共有しよう	 8
2. 水害コミュニティ・タイムラインを作るために	 9
2-1. 水害コミュニティ・タイムラインとは	 9
2-2. 知っておくと便利な情報	 9
(1) 情報を得るために有効なツール	 10
(2) 情報の内容を理解する	 11
(3) 基本的な避難の流れについて	 15
3. コミュニティ・タイムラインの作成	 17
3-1. コミュニティ・タイムラインの見方（おもて面）	 17
3-2. コミュニティ・タイムラインの見方（うら面）	 18
3-3. コミュニティ・タイムラインの検討方法	 20
(1) 地域の水害リスクや避難所などを確認する	 20
(2) 地域でできる情報収集・伝達について整理する	 21
(3) 要配慮者や避難行動要支援者への支援について整理する	 23
(4) 地域の避難所の運営を支援する	 25
(5) 共助はあくまでも「できる範囲」で	 25

1. 地域における助け合い（共助）の重要性について

1-1. 近年の自然災害

(1) 異常気象時代

日本では年平均気温は、100年あたり1.19℃の割合で上昇しています。猛烈な雨（1時間80mm以上）の年間回数も増加の傾向にあると言えます。毎年のように起こる自然災害による被害は今後も増加していくことが予想され、北海道に住む私たちにとっても、決して他人事ではありません。人命を守り、被害を最小限に抑えるために、平時から準備し、いざという時のために備えておくことが大切です。



出典：気象庁

(2) 最近の主な大規模水害

平成26年8月豪雨（広島土砂災害）	死者77人、住宅全壊179棟
平成27年9月関東・東北豪雨	常総市の1/3約40K㎡浸水 2万棟被害
平成28年台風第7・9・10号	東北・北海道で死者行方不明者27人、500棟超全壊
平成30年7月豪雨（西日本豪雨）	死者263人、行方不明8人 6,783棟全壊



平成28年の台風第7号・9号・10号では、岩泉町のグループホームが浸水するなど、東北や北海道で大きな被害をもたらしました。特に、北海道においては、石狩川氾濫（深川市・旭川市）、空知川氾濫（南富良野町）、常呂川氾濫（北見市）等で甚大な被害が出たことは、まだ記憶に新しいのではないのでしょうか。

1-2. 「自らの命は自ら守る」という意識を持つ地域を目指す

住民が「自らの命は自ら守る」意識をもって自らの判断で避難行動をとり、行政はそれを全力で支援するという住民主体の取組を目指していきます。

(1) 異常気象時代では行政主導の災害対応には限界がある（公助）

行政は水害リスクを減らすため、堤防やダム等の施設整備を進めていますが、近年その計画規模を上回る異常気象による大規模な水害が、北海道を含む全国各地で多発しています。また、行政から届く情報や支援など、公助のサポートが私たちのところに届くまでには時間がかかったり、すべての人に行き渡らない等、限られた行政職員の力だけでは激化する気象変動による風水害から住民を守り、犠牲者をゼロにすることはできません。

今後は、行政主体の防災への取り組みから、住民主体の防災体制に転換していく必要があります。

今までに経験したことのなかったような大雨には特に注意が必要です



(2) 自らの命は自ら守る（自助）

私たち住民は、いざという時に自分自身や家族の安全を守るために、平時から自分たちの地域の水害リスク（浸水の深さや過去の被害等）を認識し、行政から出される情報を正しく理解して適切なタイミングで避難することが必要です。



万が一、逃げ遅れたり孤立した場合に必ずしも救助が間に合うとは限りません。そのため普段から避難のタイミングや避難先、支援者が必要な場合は、その支援者への連絡方法（※1）など事前に決めておくことが必要でしょう。

※1 避難に支援が必要な方のため個別支援プランの作成を進めています。詳しくは、町内会長又は市（防災危機対策室）に相談ください。

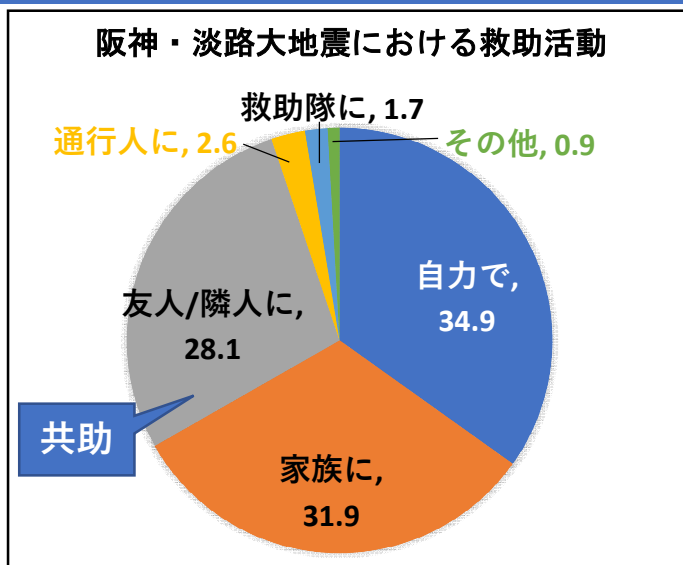


(3) 地域の助け合い（共助）

右のグラフは、阪神・淡路大震災で助けられた人の割合を示しています。約3割の人が地域の方々の助け合い（共助）によって救助されていることがわかります。

また平成29年の西日本豪雨でNHKが広島県、岡山県、愛媛県で行った被災地アンケートでは、「消防や警察、近所の人、家族や親族の呼びかけ」をきっかけにして避難した人が31.8%、防災行政無線7.4%、

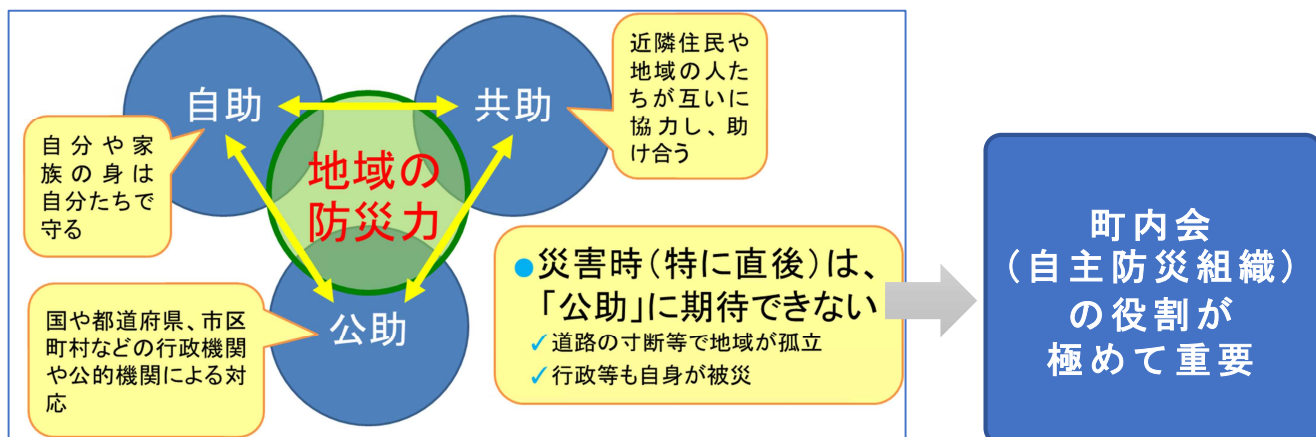
テレビ・ラジオ4.5%となっています。直接的な避難の促しが避難行動を取るためには効果的であり、地域における助け合い（共助）の取組が特に重要と考えられます。



出典：日本火山学会「1995年兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書」

(4) 地域の助け合い（共助）が必要なわけ

私たち自身が、自助の行動をするのにも、様々な事情により誰かの助けが必要な場合があります。行政からの情報をお互いに届け合ったり、自力で安全確保が難しい人たちを支援するなど、地域の方々との助け合い（共助）は、言わば自助と公助をつなぐ役目であり、また自助を手助けする役目であると言えます。共助とはお互いに協力し合い、助け合うことであり、普段助ける側だった人が、時には助けられる側になることもあり得るのです。災害時であればあるほど地域の助け合いや支え合いが求められる機会は大きくなります。



出典：北海道総務部危機対策局危機対策課「北海道地域防災マスター認定研修会」

1-3. 地域における助け合い（共助）を進めるためには

公助にも限界があり、自助の力だけでは十分な備えや行動ができないような大規模な災害のときには、特に共助の力は欠かせません。共助力を高め、いざという時に最大限に役割が発揮できるよう、平時からできることがあります。

(1) 町内会長としての立場を最大限に利用しましょう

共助の取り組みには、まず先頭に立って主動する地域の防災リーダーが必要です。その役割を担うのは地域をまとめる町内会長や役員の皆様です。あまり難しく考えず、例えば地域住民に積極的に声をかけるなど、できることから取り組んでいきましょう。また、市や先進的な町内会に相談し、支援や協力を得る方法もあります。



町内会長

(2) 楽しく取り組もう

共助の取り組みも含め、活動が活発な町内会に共通しているのは、「楽しむこと」です。既存の町内会のイベントや会合（役員会・総会）を活用して「防災」を取り入れることで、多くの住民が参加し防災について触れる機会を作りましょう。

東滝川連合町内会の例



体育館内で、実際の防災用品を展示したり、AED講習や消火器を使った消火体験、餅まきなどを行いました。

東滝川転作研修センターにて
参加者：約100名

滝の川東地区連合町内会の例



会場のサイズに合わせた図面を用意し、実際の避難者を想定した「Do はぐ」（北海道版の避難所運営ゲーム）を実施しました。

北地区コミュニティセンターにて
参加者：約25名

(3) 地域防災に関わる仲間を作り、育てよう

共助の取り組みをするにあたって、仲間（協力者）を作ることは、大変有効です。地域の活動や取り組みにおいての役割分担や地域の課題について相談ができ、災害時には町内会長に代わって指示を出したり、防災行動の手助けをしてもらえます。その仲間を通じて災害時に支援が必要な人の情報を集めたり、共助活動に役立つスキルを持った人を探しやすくなるなどの効果が期待できます。また、次の世代の防災リーダーとして、地域の防災活動に参加する人材を育てることも大切です。特に避難所運営の場合は、「女性の視点を反映してほしい。」という声が多いことから、女性の防災活動への参加や協力の必要性が高まっています。町内会のイベントや会合に防災を取り入れるとともに、女性が参加しやすくなるよう工夫することで、女性の仲間を作るとよいでしょう。



(4) 共助のできることを整理し、地域で共有しよう

災害時に町内会や自主防災組織で行うことができる地域の助け合いとして、**情報伝達・避難行動支援・避難所運営**などがあります。具体的な内容や役割について、平時から決めておく必要がありますが、面積や世帯数が違うそれぞれの町内会において、できることは異なります。自分たちの地域でどのような共助が出来るのかを整理し、地域住民で共有するため「コミュニティ・タイムライン」を作ることが有効です。作成にあたっては、中心となる町内会長や役員に加え、北海道地域防災マスター認定者や災害対応に熟知した消防OB・自衛隊OB・警察OBの方々など支援者の協力を得ることで仲間を増やし、より効果的な計画になるでしょう。

コミュニティ タイムライン



住民が安全に避難できるよう、地域の防災上の現状や課題を踏まえ、コミュニティの対応方針や避難ルールを計画する。

- ・自治会長や班長の役割は？
- ・安全な避難場所・施設は？
- ・住民が避難開始を判断する情報や目安は？
- ・住民に求める行動は？

2. 水害コミュニティ・タイムラインを作るために

2-1. 水害コミュニティ・タイムラインとは

コミュニティ・タイムラインでは、どのような情報が発表されたときに（いつ）、町内会や自主防災組織の皆様が（誰が）、どのような共助ができるのか（何をするのか）を整理することによって、水害時における防災行動を明確にします。

タイムラインの策定過程で、自分たちの住んでいる地区の水害リスクを理解し、実際の水害時に得られる情報を知ることができます。また、それを地域で共有することで、いざという時に町内会の皆様が地域の支え合いによって、住民一人一人が命を守るために行動できる地域になります。平時から住民の繋がりや防災意識を高める効果も期待され、災害に強いまちづくりに繋がることも期待できます。

《コミュニティ・タイムラインの作成・活用の流れ》

行政から発表される
情報を知る

気象情報や避難情報を受けて、どのタイミングで動くかを検討します

地域でできる
共助の取り組み

自分たちの地域でどのような共助ができるのかを整理します

地域全体で共有する

いつ、どのように行動するのかを地域全体で共有します

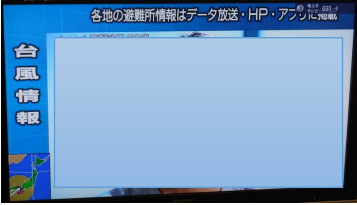
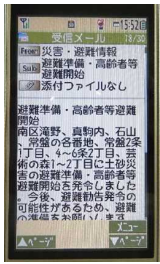
2-2. 知っておくと便利な防災情報

危険が迫っている時に、的確な情報を収集することはとても重要です。いつ、どのような情報を入手することができるのか、今後の雨の量や川の水位などがどうなっていくのか、避難の開始はいつくらいになりそうかなどの情報について、情報の在り処と発表（発令）の時期などを知っておき、町内会（自主防災組織）で確実に入手できるように備えておくようにしておきましょう。

次のページからは、知っておくと便利な情報の入手方法と情報の内容を解説していますので、コミュニティ・タイムライン作成の参考にして下さい。

(1) 情報を得るために有効なツール

各家庭や個人で所有している以下のようなツールで、重要な防災情報を得ることができます。

情報ツール	受け取れる情報
テレビのテロップ(NHK)  TVデータ放送(NHK)  dボタン 	■ 気象情報（台風・注意報・警報等） → dボタン～「防災・生活情報」へ ■ 避難情報（避難準備・避難勧告等） → dボタン～「防災・生活情報」へ ■ 河川情報 （石狩川・空知川の水位・氾濫発生情報） → dボタン～「防災・生活情報」へ
市や消防の広報車  FMなかそらち (77.9MHz) 	■ 気象情報（警報等） → FMなかそらち（自動起動ラジオ） ■ 避難情報（避難準備・避難勧告等） ■ 河川情報 （石狩川・空知川の氾濫発生情報）
パソコン  スマートフォン  防災ツイッター QRコード 	■ 気象情報（台風・注意報・警報等） → 札幌管区気象台ホームページ ■ 避難情報（避難準備・避難勧告等） → 市のホームページ、防災ツイッター ■ 河川情報 （石狩川・空知川の水位・氾濫発生情報） → 国土交通省のホームページ （川の防災情報）
携帯電話の緊急速報メール（ソフトバンク） 	■ 気象情報（特別警報） → 緊急速報メール（エリアメールの受信） ■ 避難情報（避難準備・避難勧告等） → 緊急速報メール（エリアメールの受信） ■ 河川情報 （石狩川・空知川の水位・氾濫発生情報） → 緊急速報メール（エリアメールの受信）

(2) 情報の内容を理解する

得られた情報を適切に読み取ることが、適切な行動の判断に繋がります。以下に、示されている情報の内容とその見方を解説します。

◆ 気象情報（気象台が発表）

ア 早期注意情報(警報級の可能性)：インターネット（パソコン、スマートフォン）

警報が発表されるような危険な現象が5日先までに予想されている場合に、警報級の可能性として「高」「中」の2段階で発表される。

大雨に関して、翌日までの期間に「高」又は「中」が予想されている場合は「警戒レベル1」となる。

今日～明日

・天気予報と合わせて発表
 ・時間帯を区切って表示

明後日～5日先

・週間天気予報と合わせて発表
 ・日単位で表示

種別	警報級の可能性								
	3日		4日			5日	6日	7日	8日
	明け方まで		朝～夜遅く						
	18-24	0-6	6-12	12-18	18-24				
大雨		中		—		—	—	中	—
暴風		—		高		—	中	高	—
波浪		—		高		—	中	高	—

[高]: 警報発表中、又は、警報を発表するような現象発生の可能性が高い状況です。明日までの警報級の可能性が「高」とされているときは、危険度が高まる詳細な時間帯を本ページ上段の気象警報・注意報で確認してください。

[中]: [高]ほど可能性は高くありませんが、命に危険を及ぼすような警報級の現象となりうることを表しています。明日までの警報級の可能性は「中」とされているときは、深夜などの警報発表も想定して心構えを高めてください。

今日～明日

前日の夕方の方で段階で、必ずしも可能性は高くないものの、夜間～翌日早朝までの間に警報級の大雨となる可能性もあることが分かる！

明後日～5日先

数日先の荒天について可能性を把握することができます！

出典：気象庁

イ 注意報：テレビ、ラジオ、インターネット（パソコン、スマートフォン）

災害が発生するおそれのあるときに注意を呼びかけて行う予報。

大雨注意報、洪水注意報が発表された場合は「警戒レベル2」となる。

ウ 警報：テレビ、ラジオ、インターネット（パソコン、スマートフォン）、防災ツイッター

重大な災害が発生するような現象が概ね3～6時間先に予想される場合に発表される。

大雨警報（土砂災害）、洪水警報が発表される場合は「警戒レベル3相当」となる。

警戒レベル3相当は、警戒レベル3ではないため、注意が必要。

エ 特別警報：テレビ、ラジオ、インターネット（パソコン、スマートフォン）、緊急速報メール（携帯電話）

警報の発表基準をはるかに超える大雨等が予想され、重大な災害が発生するおそれ著しく高まっている場合に発表される。

大雨特別警報が発表される場合は、「警戒レベル5相当」となる。

警戒レベル5相当は、警戒レベル5ではないため、注意が必要。

【雨の強さと降り方】

1時間雨量 (ミリ)	予報用語	人の受けるイメージ	人への影響	屋内（木造住宅を想定）	屋外の様子	車の運転
10以上～ 20未満	やや強い雨	ザーザーと降る	地面からの跳ね返りで足元が濡れる	雨の音で話し声がよく聞き取れない	地面一面に水たまりができる	
20以上～ 30未満	強い雨	どしゃ降り				ワイパーを速く動かしても見づらい
30以上～ 50未満	激しい雨	バケツをひっくりかえしたように降る	傘をさしてもぬれる		道路が川のようになる	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキがきかなくなる
50以上～ 80未満	非常に激しい雨	滝のようにゴーゴーと降り続く		寝ている人の半数くらいが雨に気が付く		
80以上～	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫間があり、恐怖を感じる	傘は全く役に立たなくなる		水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	車の運転は危険

出典：気象庁

激しい降雨が長く続く場合は、川の氾濫に加え、土砂災害の危険も出てきますので、注意が必要です。また、滝川市は、水災害の恐れが出てくる雨の降り方として、以下の基準を出していますので、注意してください。

【滝川市の雨量に基づく水害リスクの考え方】

■72時間（3日）雨量で260ミリ ➡石狩川・空知川決壊の恐れ

■3時間雨量で80ミリ

➡中小河川（銀川、深沢川、ラウネ川、熊穴川、江部乙川、須麻馬内川等）の氾濫の恐れ

■1時間雨量で35.5ミリ

➡市街地・低地等の内水氾濫（床下・床上浸水や道路冠水等）の恐れ

【記録的短時間大雨情報】

数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を、観測した場合に発表される。この情報が発表されたときは、お住まいの地域で、土砂災害や浸水害、中小河川の洪水の発生につながるような猛烈な雨が降っていることを意味し、滝川市の場合には、1時間雨量100ミリで発表となる。

◆ 河川情報（国・道などの河川管理者と気象台が合同で発表）

【河川の水位】

河川の水位は、その危険度によって以下のように区分される。

計画高水位	150年や200年などに一度起こると想定した洪水で、堤防が耐えることができる水位
氾濫危険水位	河川が氾濫する恐れのある水位や安全に避難するために避難を開始すべき水位
避難判断水位	市町村からの避難準備情報などの避難情報が発表される目安となる水位
氾濫注意水位	河川の氾濫の発生を注意する水位
水防団待機水位	水防団が待機する目安となる水位

【緊急速報メールに配信される情報】

氾濫危険水位を超えた時および河川氾濫が発生した時に国土交通省より配信される。

【携帯電話の画面】

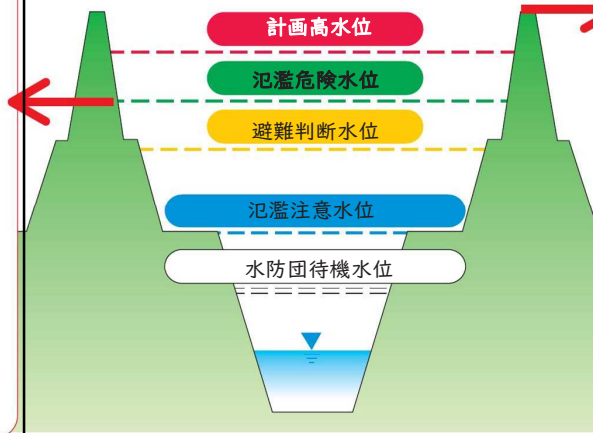
【携帯電話の画面】

氾濫危険水位を超えた時の情報

（件名）
河川氾濫のおそれ
（本文）
石狩川の橋本水位観測所（新十津川町橋本町）付近で水位が上昇し、避難勧告等の目安となる「氾濫危険水位」に到達しました。堤防が壊れるなどにより浸水のおそれがあります。防災無線、テレビ等で自治体の情報を確認し、各自安全確保を図るなど適切な防災行動をとってください。
本通知は、北海道開発局札幌開発建設部より●●市、●●町、●●村に配信しています。
（署名）
国土交通省

河川氾濫が発生した時の情報

（件名）
河川氾濫発生
（本文）
石狩川の滝川市●●地先（右岸、西側）付近で堤防が壊れ、河川の水が大量に溢れ出しています。防災無線、テレビ等で自治体の情報を確認し、各自安全確保を図るなど適切な防災行動をとってください。
本通知は、北海道開発局札幌開発建設部より●●市、●●町、●●村に配信しています。
（署名）
国土交通省



コラム 川がある暮らし

私たちの住む滝川市は、北海道で一番大きな川、石狩川とその一番大きな支流、空知川に挟まれています。堤防やダムが無かった時代は、川が氾濫すると多くの命や財産が失われ、雨が降る度に川の水位に意識が向けられていました。堤防やダムが整備された現在は大きな氾濫は起こっておらず、私たちは普段それほど川を意識することはなくなりました。しかし、それは今までに限った話であり、次に氾濫が起きたとき、その規模は途方もなく大きく、甚大な被害になるかもしれません。私たちは、大きな2つの川に挟まれ、水害を受けやすい地域に住んでいるという事実を忘れることなく、水害リスクを認識し、自らの責任と判断で避難行動をとるために、様々な情報を使って川を意識していくことが大切です。

◆ 住民避難に関する情報（滝川市から発令）

ア 避難準備・高齢者等避難開始：

- ・要配慮者(※)とその支援者は立ち退き避難をする。
- ・その他の人は避難の準備を整えるとともに、今後の防災気象情報、水位情報等に注意を払い、自発的に避難を開始することが望ましい。

※高齢の方、体の不自由な方、小さな子どもがいる方など
避難に時間のかかる方を言います。



イ 避難勧告：

- ・一般住民も含め、発令された対象地域の全員が浸水想定区域外（指定避難所等）へ速やかに避難する。



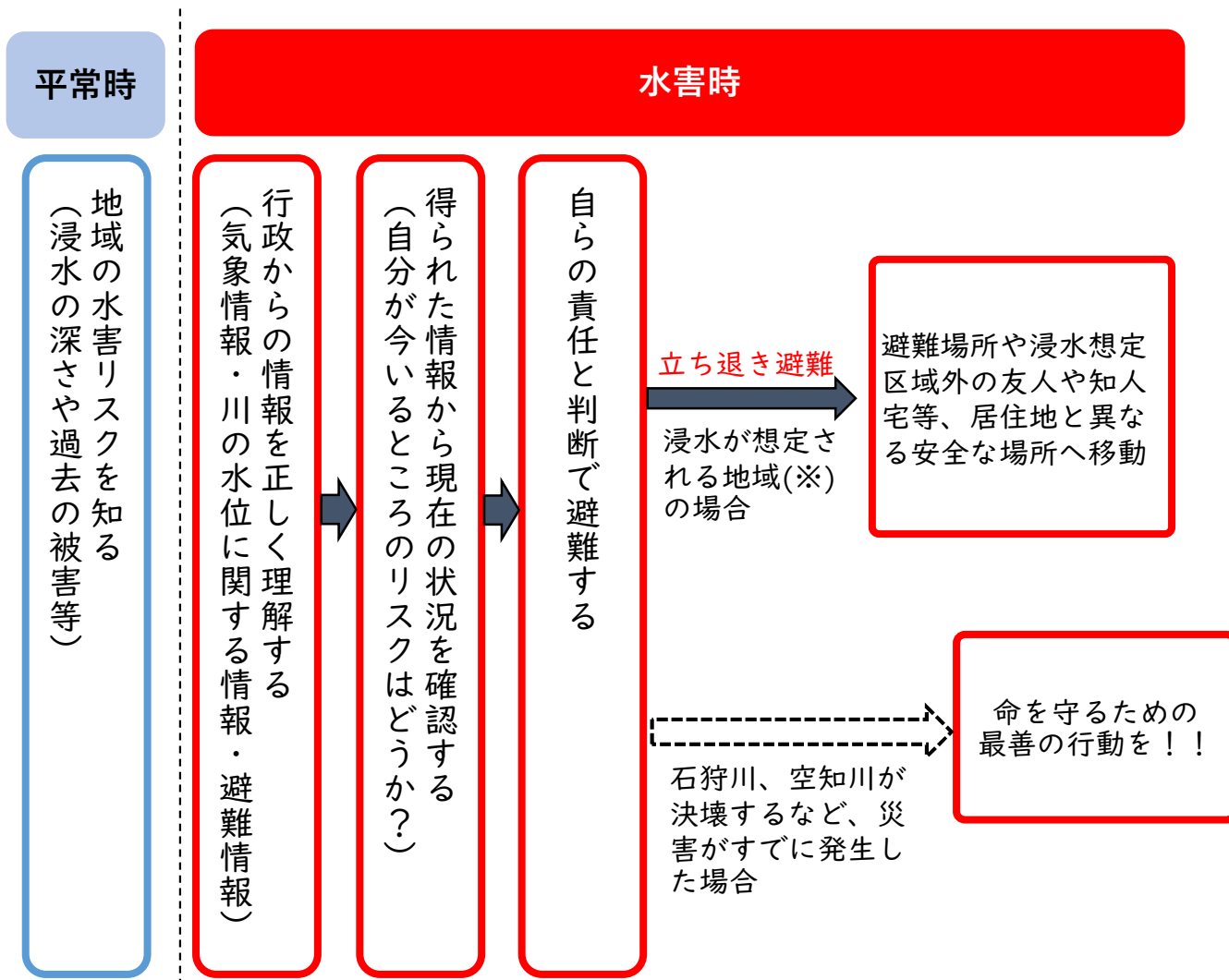
ウ 避難指示（緊急）：

- ・既に災害が発生していてもおかしくない極めて危険な状態。未だ避難していない人は、予想される災害に対応した指定緊急避難場所へ緊急に避難する。
- ・既に災害が発生している場合など、指定緊急避難場所への避難は、かえって命に危険をおよぼしかねないと自ら判断する場合には、「近隣の安全な場所」への避難等、命を守るための最善の行動をとる。



(3) 基本的な避難の流れについて

札幌管区気象台や滝川市など、行政から情報が出された時は、その情報を正しく理解し、状況を鑑みて自らの責任と判断で避難しましょう。どんな情報が出されたら避難しなければならないのか、自分の住んでいる地域のリスク（浸水や土砂災害が起こる可能性）はどうか等、いざという時に正しく判断するために、平時から確認しておく必要があります。そして、いよいよ避難というときには立ち退き避難をしましょう。避難が間に合わず、災害が起こってしまった時は、命を守るために最前の行動をとるようにします。



※ 滝川市洪水ハザードマップで、自分の地域が浸水想定区域かどうか、また浸水の深さはどのくらいなのかを予め確認しておくようにして下さい。

◆ 警戒レベル

災害の切迫状況に応じて危険度を示す情報として「警戒レベル」があります。これは、住民が的確に避難行動ができるようにするため、気象や避難に関する情報を5段階の数字で伝えられます。レベルごとに「住民がとるべき行動」として推奨される行動が示されており、【警戒レベル3】は要配慮者や高齢者等が避難を開始する段階（避難準備・高齢者等避難開始と同義）、【警戒レベル4】は全員が避難をする段階（避難勧告・避難指示(緊急)と同義)とされています。

警戒レベル	基準となる情報	住民がとるべき行動
警戒レベル5	災害発生情報 (滝川市が発表※)	命を守る最善の行動
警戒レベル4	避難勧告 避難指示(緊急) (滝川市が発令)	発令地区の全員が避難
警戒レベル3	避難準備・高齢者等避難開始 (滝川市が発令)	発令地区の要配慮者(※)は避難 ※高齢の方、体の不自由な方、小さな子どもがいる方など、避難に時間のかかる方
警戒レベル2	大雨・洪水等の注意報 (気象台が発表)	避難行動の確認・準備
警戒レベル1	早期注意情報で2日以内に [中][高]の可能性 (気象台が発表)	災害危険性への心構えを持つ

※ 「災害発生情報」は、災害発生がすぐに認知できない場合があるため、認知次第できるだけ早く発表することになっています。住民はこの情報の前（レベル3，4）の段階で確実に避難していることが重要です。

3. コミュニティ・タイムラインの作成

3-1. コミュニティ・タイムラインの見方（おもて面）

滝川市内の各町内会・自主防災組織の役員には、滝川市が必要だと思われる情報や内容を予め書き込んだ「コミュニティ・タイムラインの様式」を配付しています。すでに記載されている内容について、まずは以下のおもて面の解説をします。

滝川市 **町内会水害コミュニティ・タイムライン (TL)：滝川市町内会等事前防災行動計画**

なぜ様々なタイムラインが必要なのか

自治体（多機関連携）タイムライン

防災上の課題・要望
・住民への声や訴えを把握し、避難所確保を早急に進めたい。
・避難所の確保が難しい。
・防災上の課題・要望
・住民への声や訴えを把握し、避難所確保を早急に進めたい。
・避難所の確保が難しい。

防災対応の支援
住民へのお願い
・事前に避難所確保を早急に進めたい。
・避難所の確保が難しい。
・防災上の課題・要望
・住民への声や訴えを把握し、避難所確保を早急に進めたい。
・避難所の確保が難しい。

コミュニティタイムライン

防災上の課題・要望
・住民への声や訴えを把握し、避難所確保を早急に進めたい。
・避難所の確保が難しい。
・防災上の課題・要望
・住民への声や訴えを把握し、避難所確保を早急に進めたい。
・避難所の確保が難しい。

防災対応の支援
住民へのお願い
・事前に避難所確保を早急に進めたい。
・避難所の確保が難しい。
・防災上の課題・要望
・住民への声や訴えを把握し、避難所確保を早急に進めたい。
・避難所の確保が難しい。

家族のタイムライン

防災上の課題・要望
・住民への声や訴えを把握し、避難所確保を早急に進めたい。
・避難所の確保が難しい。
・防災上の課題・要望
・住民への声や訴えを把握し、避難所確保を早急に進めたい。
・避難所の確保が難しい。

防災対応の支援
住民へのお願い
・事前に避難所確保を早急に進めたい。
・避難所の確保が難しい。
・防災上の課題・要望
・住民への声や訴えを把握し、避難所確保を早急に進めたい。
・避難所の確保が難しい。

家族のタイムライン

1 避難のタイミング（避難行動は個人の判断・責任 普段からの備えが大切）

※1 個別支援プランの作成をしたい方は又は家族等は町内会長にご相談ください。

状況	準備・連絡・避難 等	避難場所
平常時		
警戒レベル1		
警戒レベル2	(注意報)	
警戒レベル3	高齢者等は避難	
警戒レベル4	全員避難	
警戒レベル5	災害発生の可能性	

2 緊急連絡先（家族等・町内会会長役員・病院・市役所（移転）・消防・その他）

連絡先名	電話番号	連絡先名	電話番号
市役所	0125-23-1234	家族（ ）	
消防	119	支援者（ ）	
通院（ ）			

3 家族のルール（安否確認の方法など）

最大浸水想定区域（石狩川・空知川氾濫の場合）

2

気象情報等の入手方法

テレビのテロップ

データ放送（dボタン）

緊急連絡メール（携帯電話）

防災ツイッターの登録（QRコード）

FM（7.9MHz）

① 家族のタイムライン

このコミュニティ・タイムラインは、うら面の内容を町内会(自主防災組織)で記載した後、各世帯に配付します。①は空欄のまま配付し、うら面の町内会(自主防災組織)の行動を参考に、各家庭で「いつ」「何を」したら良いのかを書き込んで頂くようにします。

② 最大浸水想定区域図

各町内会の範囲を含んだ地図です。石狩川や空知川が氾濫した場合、各地域で想定される最大の浸水範囲や浸水深が色分けで示されており、避難所までの安全な経路や余裕を持って避難するために必要な時間を検討する際の参考にします。

③ 気象情報等の入手方法

町内会や各世帯で確認することができる気象情報や避難情報の入手方法です。このうち、町内会や各世帯で使いやすいツールを複数選んでおくとういでしょう。

3-2. コミュニティ・タイムラインの見方（うら面）

うら面は、町内会や自主防災組織で地域の状況を考慮して書き込みます。うら面にすでに記載されている内容について、以下に解説します。

滝川市 町内会水害コミュニティ・タイムライン（TL）表（滝川市町内会等事前防災行動計画）						
公助 A 気象状況・避難の発令等（第三者）	共助 B 情報・情報方法（町内会）	共助 C 町内会役員等	自助 D 町内会役員等	自助 E 町内会役員等	避難所 F	備考 G
＜経過＞ 台風が北海道に接近する 5日前 ＜警戒レベル1＞ 早期注意情報 （警戒級の可能性） （気象台） ＜警戒レベル2＞ 大雨注意報・洪水注意報 （気象台） 警戒レベル3相当 大雨警報・洪水警報 （気象台） ＜警戒レベル3＞ 避難準備・ 高齢者等避難開始 （滝川市） 警戒レベル4相当 氾濫危険情報・河川氾濫発生 （気象台） ＜警戒レベル4＞ 避難勧告・ 避難指示（緊急） （滝川市） ＜警戒レベル5＞ 浸水発生情報 （滝川市）	①テレビ・ラジオ（各自） ②町内会水害コミュニティ・タイムライン（インターネット等で閲覧可能な情報担当の方） 以下N担当とする N担当：氏 ①札幌管区気象台のホームページ（N担当） ①テレビ・ラジオ（各自） ②札幌管区気象台のホームページ（N担当） ①テレビ・ラジオ（各自） ②札幌管区気象台のホームページ（N担当） ③防災ツイッター（N担当） ④M なかそらち（自動起動ラジオ 町内会長） ①テレビのテロップ・NHK データ放送（各自） ②携帯電話緊急通報メール（各自） ③町ホームページ・Facebook・防災ツイッター（各自） ④M なかそらち（自動起動ラジオ 町内会長） ⑤広報車による呼びかけ（各自） ①国土交通省の緊急通報メール（各自） ②石狩川、空知川が氾濫危険水位に到達し、氾濫発生情報の発表 ③防災ツイッター（N担当） ④M なかそらち（自動起動ラジオ 町内会長） ①テレビのテロップ・NHK データ放送（各自） ②携帯電話緊急通報メール（各自） ③ホームページ・Facebook・防災ツイッター（各自） ④M なかそらち（自動起動ラジオ 町内会長） ⑤広報車による呼びかけ（各自） ①国土交通省の緊急通報メール（各自） ②石狩川、空知川が越水または堤防決壊し、氾濫発生情報の発表 ③M なかそらち（自動起動ラジオ 町内会長）			①気象情報の確認 ②家族の連絡先確認 ③避難持ち出し品の準備（常備薬や赤ちゃんのおむつ・ミルクの在庫等） ④情報の確認・受信 ①気象情報の確認 ②早期自主避難（避難行動により多くの時間や支援がかかる場合） ③気象情報の確認 ④早期自主避難 ①災害情報の確認 ②高齢者・障害者、小さなお子様のいる世帯等に避難場所や避難経路の案内 ③災害情報の確認 ④一般住民は避難準備 ①災害情報の確認 ②全員避難（安全な避難の開始） ①まだ避難していない人は命を守る最善の行動をとる（浸水深を確認の上、垂直避難や立退き避難かを選択） ②避難後は家族等に連絡		平常時からの準備も含む （ここでできていないことは警戒レベル1で実施する）

A 気象状況・避難の発令等（公助）

警戒レベルとその段階発表（発令）される情報を示しています。それぞれの町内会や自主防災組織で防災行動を「いつ」実施するののかといった点を、警戒レベルごとに整理するための基準となります。

※ なお、大雨警報や洪水警報などは「警戒レベル3相当」、氾濫危険情報などは「警戒レベル4相当」の情報として気象台や河川管理者から発表されますが、これらの情報を加味して滝川市が「警戒レベル3(避難準備・高齢者等避難開始)」「警戒レベル4(避難勧告や避難指示(緊急))」を発令しますので、それぞれの警戒レベルに切り替えられる前の『見込みの情報』として理解するようにして下さい。

B 情報の受信方法（共助・自助）

公助である気象台や河川管理者、滝川市から発表(発令)される情報を入手する手段を示しています。特にリアルタイムで情報を入手するためには、インターネットから情報を得ることが効果的なので、各町内会・自主防災組織でインターネットで情報取得することが可能な方を防災リーダーの仲間に加えておくことが推奨されます。

※インターネットで情報入手が可能な方を「N担当」と記載しています。

C 町内会3役・役員等（共助） ※各町内会・自主防災組織で書き込む欄

気象台や市から受信した情報を町内会全体に伝達するなど、町内会・自主防災組織のリーダーとして行う防災行動を書き込むための欄です。

D 地域での支え合い（共助） ※各町内会・自主防災組織で書き込む欄

町内会・自主防災組織の中で近隣住民同士で互に行う支え合い、助け合いの行動を書き込むための欄です。Cの役員からの情報を各住民に伝達し合う取組や、一人では避難できない要配慮者の方に声かけや介助を行ったりする共助の取り組みを記載します。

E 各家庭や住民一人ひとり（自助） ※各町内会・自主防災組織で書き込む欄

町内会にいる住民や家庭それぞれで自助として行う防災行動です。各警戒レベルで推奨されている行動を予め滝川市で書き込んであります。記載されている内容のほか、町内会や自主防災組織として住民に求める(勧める)防災行動があれば追記します。

F 避難所 ※各町内会・自主防災組織で書き込む欄

滝川市では、町内会ごとに避難すべき避難場所がいくつか定められていますが、どこへ避難するのは、あくまでも住民個人の判断に委ねられます。また、各町内会・自主防災組織で安否確認をしたり、避難所運営をするなど、町内会役員が駐在する避難所がある場合には、その避難所を書き込んでおくことで、町内会の住民への周知を図ることができます。なお、福祉避難所に避難する必要がある住民がいる場合には、福祉避難所についても書き込んでおきましょう。

G 備考 ※各町内会・自主防災組織で書き込む欄

他の欄に書ききれない内容や地域のルールとして住民が共有しておくべき事項などがあれば、備考欄に書き込みます。

3-3. コミュニティ・タイムラインの検討方法

それでは、あなたの町内会(自主防災組織)のコミュニティ・タイムラインを具体的に作成していきます。

(1) 地域の水害リスクや避難所などを確認する

コミュニティ・タイムライン様式のおもて面(左下)にある浸水想定区域図を用いて、町内会や自主防災組織のリスクや活用できる資源を確認します。

《作業》

- ① ご自身の町内会・自主防災組織の範囲を囲んでください
- ② 町内会の住民が避難することになっている避難所の位置に○を付けて下さい

《確認事項》

- ① 町内会・自主防災組織の範囲内の想定浸水深を確認して下さい **【注意点①】**
- ② 町内会・自主防災組織の範囲内や指定避難所までの経路に、大雨の際によく氾濫する中小河川、冠水する道路やアンダーパス、内水氾濫が発生しやすい場所、交通障害が起こる可能性のある場所などがいないか確認して下さい **【注意点②】**
- ③ 町内会・自主防災組織の中で、避難の時に町内会や近隣住民の声かけや避難介助が必要な方がいないか確認して下さい **【注意点③】**

【注意点①】 想定浸水深地域では、自宅の2階への避難はできません。特に、想定浸水深3mで自宅の1階が水没し、5mで2階まで水没しますので注意してください。自宅の周囲の道路が冠水して移動できなくなる前に確実に避難所等に避難できるよう、早い段階で情報伝達や避難支援を開始するようにします。

【注意点②】 過去によく冠水したり、水が溜まって交通障害が生じたような場所は、避難する際の経路として使用しない方が良いです。備考欄などに記載して住民の間で認識を共有するよう努めます。

【注意点③】 「個別支援プラン」を作成している方や、その他の避難行動要支援者に対し、災害時にどのように声かけし、どのように避難の支援ができるのか、それらを開始するタイミングを検討し、タイムラインに書き込みます。

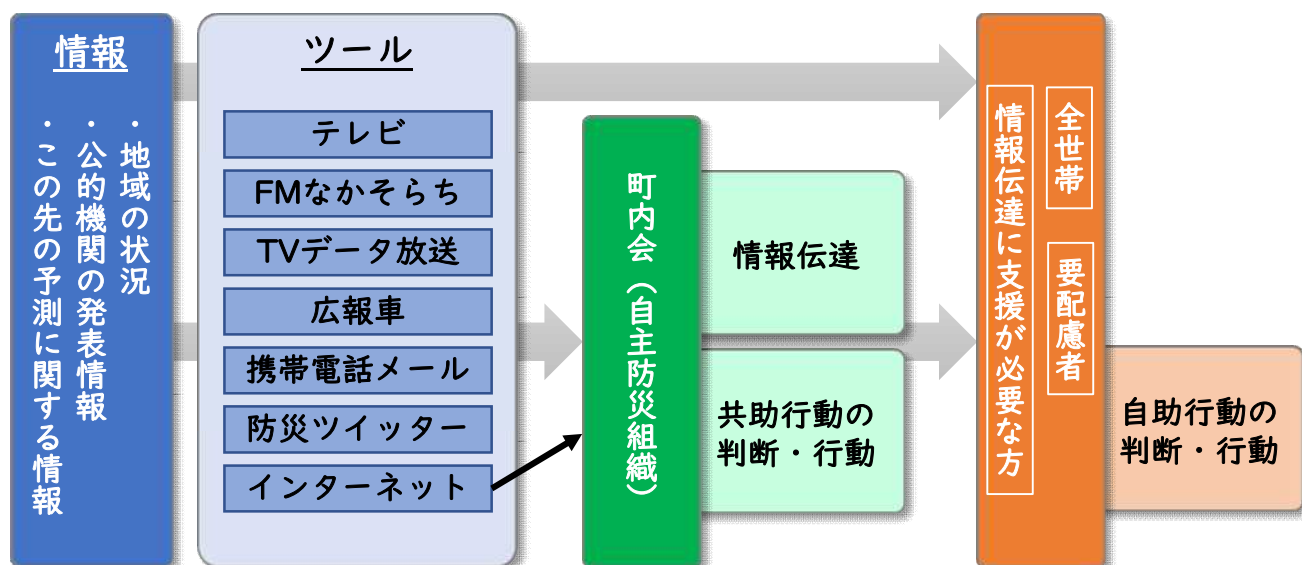
(2) 地域でできる情報収集・伝達について整理する

町内会や自主防災組織による共助では、情報の収集と住民や要配慮者への伝達が主な役割の一つとなります。災害が切迫しているときには、気象台・河川管理者・滝川市などの公助からの情報を受けて、できるだけ早く共助・自助の行動をとることが安全のためにとっても重要です。町内会や地域にある情報ツールを活用して、どのような情報収集・伝達ができるのかを整理し、タイムラインに記載します。

《町内会・自主防災組織役員による情報収集・伝達について》

- ① 共助の拠点となる町内会(自主防災組織)では、特にインターネットでリアルタイムに必要な情報を得られることが効果的です。役員や地域住民などの中でインターネットを用いて情報収集できる方を見つけ、災害警戒時の協力を求めます。
- ② 町内会(自主防災組織)で気象情報・河川情報・避難情報などを集約したり、地域住民に伝達する役割の方を決めます。
- ③ これらの情報を「いつ」伝達するのが適当か、(1)で検討した地域の状況に応じて決め、その伝達方法を検討します。 (例) 町内会連絡網を設定するなど
- ④ ①～③で決めた事項をタイムライン(うら面)のC及びDの列の該当するタイミングに記入します。

◆ 情報伝達の流れ (例)



◆ 情報の発表時期と利用可能なツール（例）

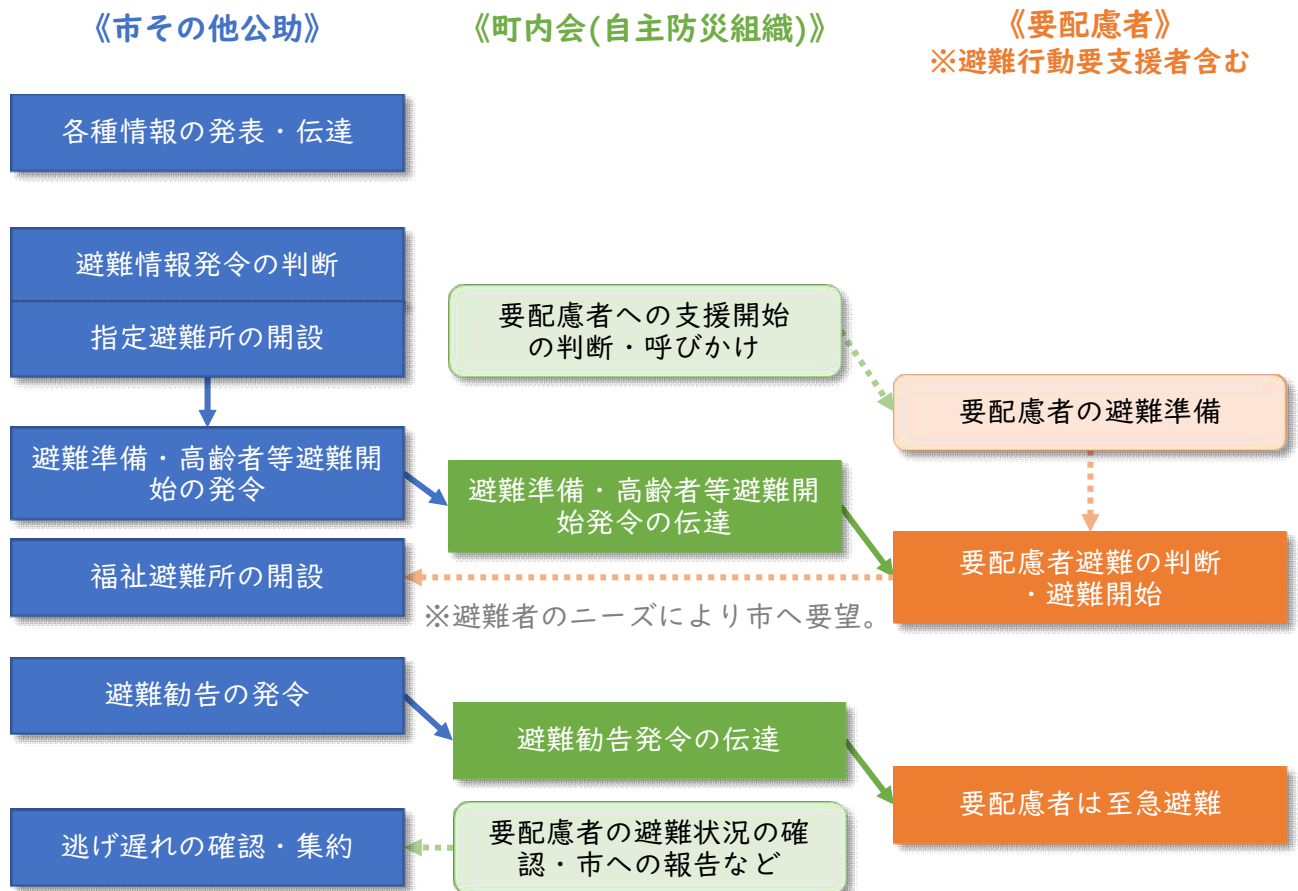
警戒レベル	発表され得る 公的情報	情報入手可能なツール
準備	- 週間気象情報 - 台風進路予想	テレビデータ放送
警戒レベル1	- 早期注意情報 - 台風進路予想	
警戒レベル2	大雨注意報・洪水注意報	インターネット
警戒レベル3相当	大雨警報・洪水警報	
警戒レベル3	避難準備・高齢者等避難開始	テレビテロップ
警戒レベル4相当	氾濫危険情報	FMなかそらち
警戒レベル4	- 避難勧告 - 避難指示(緊急)	携帯電話メール
警戒レベル5	災害発生情報	広報車
		防災ツイッター

地域によっては、早い時期に道路冠水で避難ができなくなったり、支援すべき避難行動要支援者が多くて避難に時間がかかるなど、多様な事態が想定されます。そのような地域では、「避難準備・高齢者等避難開始」の発令を待たずに早いうちから要配慮者に声かけををするといった、町内会(自主防災組織)独自の判断も必要になります。それぞれの地域に合ったタイミングで情報収集・伝達をして下さい。

(3) 要配慮者や避難行動要支援者への支援について整理する

いざ、避難をする際に、独力では安全に避難所まで辿り着くことができない方を「避難行動要支援者」と言います。滝川市では該当者の候補者リストを整理しており、町内会から情報を得て、必要な方への「個別支援プラン」の斡旋を町内会長さんをお願いしています。また、地域には市が把握できていない避難行動要支援者が他にもいたり、避難行動はできるが避難勧告等の情報を得ることが困難な、情報伝達に支援が必要な方などもいると考えています。しかし、大規模な災害や広域での災害が予想される場合などには、市役所をはじめ消防・警察・自衛隊などの公助を隅々まで行き渡らせることは難しく、町内会や自主防災組織による共助の主要な役割の二つ目として、要配慮者(避難行動要支援者を含む)に対する支援があげられます。

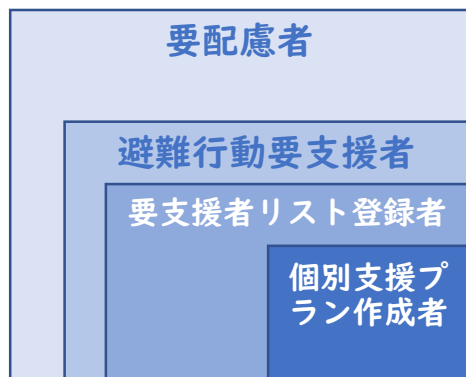
以下に、各主体における要配慮者支援の役割(例)をフロー図で示します。



《町内会・自主防災組織による要配慮者支援について》

- ① 要支援者リストや滝川市民生委員児童委員連合協議会などの情報から、町内会(自主防災組織)の中に情報伝達が必要な方や避難行動に支援が必要な方がどのくらいいるのかを把握します。
- ② 個別支援プランなどから町内会(自主防災組織)としてどのような支援方法が可能かを考えます。例として、平時から該当する要配慮者を支援できる人を見つけて協力をお願いする、滝川市民生委員児童委員連合協議会などと協議して支援方法を考える場を提供する、などが挙げられます。
- ③ 特に避難に関する市からの情報を伝達することや、要配慮者・支援者双方への準備・行動開始の呼びかけなどは、地域の水害リスクを踏まえて、いつ・どのように行うのかを決め、C及びDの列の該当するタイミングに記入します。
- ④ また、「自助」として住民が実施すべき行動があれば、Eの列に追記します。

要配慮者・避難行動要支援者とは



災害情報を聞きとることが難しい外国人や妊産婦、高齢者、障がいのある人、乳幼児のいる家庭など、避難に時間がかかるため、災害警戒時に特に配慮を要する人を「要配慮者」と言います。この中で、独力で避難することが困難な方を特に「避難行動要支援者」と言い、市ではリストを整理しています。市では、必要に応じて地域で支援ができるよう、リストを町内会等に提供しています。

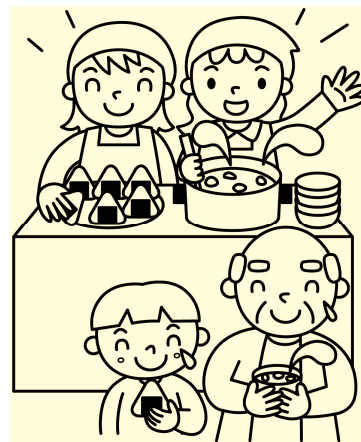
要配慮者(避難行動要支援者)に対する避難支援の例

- ・ 徒歩避難に時間がかかる方は自動車で避難してもらう。(渋滞や避難所の駐車場に入れない場合もあるため注意が必要)
- ・ 自動車を運転できない、または自家用車がない方を支援する場合、町内会近隣の住民が運転する車に同乗して避難する。
- ・ 目や足などが不自由な方で、自力で避難できない方を支援する際はできるだけ一緒に避難する。家族等の支援者がいる場合は、連絡が取れているかの確認もしておくといよい。
- ・ ご近所同士で声を掛け合い、一緒に避難する。



(4) 地域の避難所の運営を支援する

大規模な災害の場合等、場所によっては避難所の開設・開設の段階から地域の自主防災組織や自治会が中心となった、住民の皆さんによる避難所運営をお願いすることが考えられます。状況により異なりますが、初期の避難所運営では、以下のような対応を行うことになります。大規模・広域の災害であればあるほど、各避難所に十分な人数の職員を配置することは困難なため、地域の町内会や自主防災組織の皆様の支援が必要です。これらも共助の取り組みの一つとして、町内会や自主防災組織の活動として位置付けていただくようお願いいたします。



- ・避難所レイアウトの設定、立入禁止区域の表示、床面シート・間仕切りの設置
- ・避難者名簿の作成、避難者の出入り(帰宅状況等)の確認
- ・避難所資機材、備蓄物資の搬出入
- ・地域の状況や気象・河川情報などの避難者への提供・掲示
- ・非常食料等の搬入、避難者への配付、非常炊き出し など

(5) 共助はあくまでも「できる範囲」で

「共助」は、地域住民同士のボランタリー精神に基づく支え合い、助け合いの取り組みです。コミュニティ・タイムラインに記載があるからといって、必ず実施しなければならない義務はありません。支援者が無理をしてけがをしたり、災害に遭っては本末転倒になってしまいます。避難行動はあくまでも一人ひとりが自らの責任と判断で行う「自助」が原則ですので、支援ができないときには、その旨を本人に伝えるとともに、町内会(自主防災組織)の役員や市役所に支援を求めることも必要です。

今後について（お願い）

作成していただいた、コミュニティ・タイムライン表を町内会及び自主防災組織で取り組むこととなった場合には、お手数をおかけしますが、市の防災危機対策室にコピーをご提出いただきますよう、ご協力をお願い申し上げます。

提出先

防災危機対策室

電話 0125-28-8003

FAX 0125-23-5775

メール bousai@city.takikawa.lg.jp